

G・アダムスキー通信

＜発行の趣旨＞ 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

G・アダムスキー著「生命の科学」を生かさなければ意味がない！・・・とよく言われます。この“生かす”とはどのようなことを指しているのでしょうか？

経験から言えることは、1つに、本書を「理解する」、2つに「実践する」、そして3つに「振り返る」ことだと考えています。

初めに「理解する」とは、書かれている内容を深く読み解き、納得していくことで、現実の生活を見ながら、様々な視点から考察して行くことが必要です。ここが最も基本的なところですが、偏見を持って読んだり、浅い精神性で読んでしまうと、真意を理解できないところがあります。一人で学習する場合は、この辺の問題点に気づけず、成果が上がらないことが多いと感じます。

2つ目の「実践する」とは、理解したことを行うということです。この行うということが難しいのです。それは、理解が十分でないことに加え、忍耐力が弱いからだと思います。実践する力がなくては、何も生かすことはできないでしょう。

そして、3つ目の「振り返る」とは、時々、自分の言動について客観的に観察することを意味しています。ここでの観察の視点は、「生命の科学」を理解し実践した結果、何がどのように変化したのか、実践において自己の利得のために行動していないかというもので、アダムスキーの伝えた想念観察に近いものです。

そこで変化がないとか、エゴを感じるならば修正をしていく必要があります。これを行わなければ、生かしているとは言えないこととなります。

アダムスキーが伝えた「生命の科学」は、実践するものをして、その周囲に予想外の変化をもたらすもので、そのメカニズムは、自己の細胞の良い変化から、その周囲への良い変化へと広がるものです。この経験が、良きカルマを形成していくことになるのです。

「生命の科学」を学んでも、何も良いことがないという人は、それを生かすステップのどこかに問題があるということなのです。

“言葉に注目”

＜…赤ん坊…彼らにしか見えない友達…彼ら自身の直前の過去の生涯における姿です。＞

by アリス・ポマロイ著『肉体を超えて大宇宙と一体化する方法』（中央アート出版社）

表記は、アダムスキーが、ニューヨーク州での小集会の質疑応答で話したものです。年配の婦人が、孫が一人遊びをしていて、誰も見えないのに、そこにいると言って話したり、怖いおじさんが見えたりする。こうした事例についてアダムスキーが説明したものです。

アダムスキーによると、十中八九、その友だちは彼ら自身の直前の過去の姿だということです。アダムスキーは、実際に子供たちとそのことで話をしたことがあるということです。

また、ある女性は、夢の中で1500人も様々な人と会っていて、それも、過去の自分であると説明しています。かつて、私の知人で市外に住む女性は、頭の中で老人の顔が見え、指示されることがあると言っていました。あれも、そのようなことなのだと思います。

「生命の科学」学習のポイントPart51

レクチャー5 「意識、英知、生命力」の2回目「三次元世界に住みながら四次元世界を認識する」です。

初めに、心を意識との関係のなかにおくと書き、海岸を例にあげ広大な水面を眺め、その中に無数の生命が存在していることを知ったうえで、海底の一粒の砂を見るように海底から海面付近の無数の生命体を知覚しなければならないと言っています。この訓練は、実際の印象を受けているのか、過去の映像を思い出しているのかの区別が難しいところです。

また、クジラを例に海中での行動と海面での呼吸などから、二つの異なる体験を持っていると説明します。そして、「人間も、同時に二つの異なる体験下で生きていることを知覚するようにならねばなりません。」として、人間は、三次元の地球上に住んでいて、四次元を頼りに生きているのだと書いています。これを対比して、魚に水が必要のように形あるものすべて、当然に人間も四次元がないと生きていけないと言っています。

次を要約すると、人間の感覚器官の心は、三次元で生きていて、それをういながら周囲を取り巻く現象の背後である四次元世界（意識界）を理解しようとして、苦しんでいるということです。つまり、四次元世界を理解するためには、意識をもちいよということです。

次に、気になる一文があります。イエスが四次元を伝えたが理解されなかったと書いた後、「しかし人間はいまここでそれを理解しなければこれから先それを理解できる機会はないでしょう。」というものです。この文章は、「生命の科学」が地球へもたらされたことから言っているようです。本書の意義と、それを学ぶ理由、重みというものを考えざるを得ません。

宇宙に“生きる”

<名言格言編51>

“猫に小判”

どんな高価なものを与えても、その価値が分からない者にとっては、何の役にも立たないという例えです。アダムスキーは、理解できない人に伝えたところで、無意味なばかりか、時には危険でさえあると言っています。私たちの活動も、相手を見て伝えていきたいものです。



Q：お金持ちになるのは悪いこと？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：お金儲けは悪いという意見がよくあります。しかし、そのこと自体、悪いということはありません。問題は、どのような思いで儲けているのかということです。お金持ちになることが目的である場合は、エゴを満足させる行為となりますが、お金を設けて、人々への援助の観点から、国内外の貧しい人たちに施しをする人もいます。資本主義社会は、多くの歪みを生じていますが、その中で、どうか宇宙的に生きることは可能であると考えています。

書物紹介

『宇宙になぜ我々が存在するのか』 村山 斉 著 (株)講談社

本書は、タイトルからの印象とは異なり、最新の素粒子入門書です。著者の村山氏は、素粒子理論における若きリーダーの一人です。素粒子とは、原子核の構成要素で、陽子や中性子を意味していますが、さらに、ニュートリノやヒッグス粒子の話へと進んでいきます。この研究により、どんな物質でも必ず対応する反物質が存在することが分かり、それらの展開で宇宙（物質）誕生へと繋がります。素粒子の視点から、我々の存在を考えるという新しい書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催☆ 平成27年5月9日（土）、7月11日（土）、9月5日（土）、11月7日（土）、平成28年1月9日（土）は、台東区民会館となります。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

今回の編集は、この期間に色々なことがあり、なかなか大変でした。今後は、少し落ち着いて編集できるかと思います。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第51号>

発行日 平成27年5月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

情報化社会に生きる私たちは、不必要な情報までが耳に入るような情報の渦の中で生きています。この情報とは、世界中の政治、経済をはじめ、科学、文化、社会、事件や事故など様々なジャンルで、しかも、それぞれに詳細かつ広範囲な内容となっています。

情報が多いというのは、科学的な分析では効果的ですが、一般生活においては混乱を生むだけかもしれません。

このような社会では、ものの「真意」が見つげにくくなるという、極めて重要な部分でのデメリットがあります。何が真実で、何が嘘なのか、何が重要で、何が重要でないのかなど、違いや真意が分からなくなるのです。その結果、人々は、考えても分かるものではないと思い、自分の意志で考えなくなり、他人の意見に容易に左右されるようになるのです。

人間は、常に真理を求めて生きなくてはなりません。アダムスキーは、人間は自然を教師として、探求していくことの重要性について語りました。自然の探究とは、宇宙の真理を求める行為で、永遠を生きる魂の肉体を得て行うべきテーマです。

しかし、これが、作爲的な情報と相まって、大変難しくなっているのです。そのこと自体、気づかない人も少なくないでしょう。そんな中でも、自ら、真理を求めて生きることを自覚させ、真理を見つける感性を磨いてくれるのが、真理の書である「生命の科学」なのです。

アダムスキーは、社会で起こるあらゆることに、興味を持つことの重要性を伝えています。そのためには、宇宙の意識を軸に迷わない自己を創る必要があります。

「生命の科学」のエッセンスを学んでいる人は、政治や経済をはじめ、自然環境さえ変化しようとしている混迷の時代にあって、原因と結果、表と裏の関係を知り、事の真偽を見分け、これから何が起ころうとするのか、迷うことなく真理に辿り着くでしょう。

いずれ、この「生命の科学」が、あるいはこの精神を理解できることが、「宇宙への切符」であること、永遠を生きる知恵であることが分かる時が来ると思います。

「言葉に注目」

<われわれは片足を前方に出したまま片足を古い習慣のなかにとどめておくわけにはゆかない。>

by G・アダムスキー著『21世紀の宇宙哲学』（中央アート出版社）

アダムスキーに傾倒し、「生命の科学」を学習している人でも、地球上で当たり前となっている習慣の中で、このようなことを行っているのです。しかも、そのことに気づいていないということが問題なのです。気づかないということは、反省もないことから、改善されることもないということなのです。これでは、進歩できないと言っているのです。

そして、「進化の道を歩むには勇気と信念を必要とする。」と続けます。だから疑ってはいけないというのです。この勇気とは、宇宙の意識を信じ込める勇気が必要だという意味と、古い習慣を廃棄し新たな一步を踏み出すという勇気を意味しています。この事実気づくためには、意識を疑わず、しかし、自己を取り巻く様々な現状こそ、疑うことが必要なのだと思います。

「生命の科学」学習のポイントPart52

レクチャー5 「意識、英知、生命力」の3回目「意識とは万物の魂」です。

この始まりで、三次元という物理的な現実世界と四次元という意識界を分けて説明しています。三次元は粗雑な部分であり、音響で伝達し、四次元は印象という感覚的知覚によるとして、そして、「意識は生命を可能ならしめる、万物の魂」であることを忘れず、意識から教わることを強調しています。この「生命」は、宇宙誕生前から意識とともに存在すると解釈され、意識の中で宇宙が創造されれば、総てに生命が宿ることから、意識は万物の魂なのです。

次に、宇宙空間は、各種のガスによって隕石などの個体を生み出すと説明しています。要するに宇宙空間は、惑星や万物を生み出す孵卵器であるということです。現在の宇宙論では、ダークマター（暗黒物質）が様々な物体を生み出すと考えられ、アダムスキーの論と符合します。

この論に従えば、同じ条件で惑星が存在するのだから、地球と他の惑星では距離が離れていても変わらないということです。そこで、宇宙空間を海の中に例えて説明します。

そして、「心の訓練は容易な問題ではありませんが、私のようにそれを達成するのに多年を要したとしても、やはり努力する価値があります。」と言っています。アダムスキーでさえ多年を要したというのですが、これは、人間として存在する者の当然の努力なのだと思います。

後半に、「創造主による「宇宙の計画」」という表現が登場します。宇宙には、計画があって、それに沿わない事柄も存在が認められるため、注意深くあらねばならないと記します。人間の原型は宇宙的なので、そのことを忘れず、理解力と忍耐力で探究することが大切なようです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編52>

“ 下手の考え休むに似たり ”

物事に巧でない人は、いくら考えてみてもいい知恵が浮かぶはずもないのだから、休んでいるのも同然で、ただ時間を浪費するだけであるという意味です。私の曾祖父は、囲碁が弱かったのか、囲碁を打ちながらそのようなことを語っていたということです。



Q：恐怖と不安は違うの？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：恐怖ということと、不安を持つということは異なります。恐怖というのは、不安を感じたことからさらに進んで、自己の身の危険を感じる感情です。恐怖によって、人間の正常な感覚、意識を感じ取る感覚さえも固まってしまう。しかし、不安というのは、その前兆現象で、危険になるかもしれないことへのサインで、他人への気遣いなどから起こる感情でもあります。そして何より、恐怖心を伴わない意識的なメッセージである場合が多いということです。

書物紹介

『おとなの教養』 池上 彰 著 NHK出版

本書には、「私たちはどこから来て、どこへ行くのか？」というサブタイトルがついています。全7章を現代の教養7科目として、読み進むうちに教養が高まっていくという構成です。第1章宗教、第2章宇宙、第3章人類の旅路、第4章人間と病気、第5章経済学、第6章歴史、第7章日本と日本人となっていて、大変読みやすく書かれています。専門書ではないので、それぞれ一般的なことが主ですが、意外と知らないことも説明されていて参考になる一冊です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成27年7月11日（土）、9月5日（土）、11月7日（土）、平成28年1月9日（土）、3月5日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

「生命の科学」にどんな力があるのか？ なかなか伝わらない。説明にも工夫が必要ですが、受け手側にも自分を変える努力が必要です。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第52号>

発行日 平成27年7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

ご主知の通り、G・アダムスキー没後50年が経ちました。生前の彼の体験は、あらゆる地球の概念を超越するものであり、伝えた事柄は、極めて素晴らしい宇宙論と哲学で満ちています。また、彼が、人々に対して示した暖かさと忍耐力、加えて行動力は尊敬に値するものです。

そして、50年が経った今日、アダムスキーに対する人々の評価はどうなったのでしょうか？ 見ての通り、彼を知っている人々が減る一方、知っていた人々は口をつぐんでいます。口をつぐんでいるというのは、信じているが話せないという状況です。実際には、この「信じている」という部分に、揺らぎが起こっているという人が多いのではないのでしょうか？

その主な理由は、アダムスキー亡き後、スペースピープルからの新たな情報をもたらされないからだと思われます。彼以降、誰かが継続してコンタクトを行い、多くの情報をもたらしてくれたら良かったのにと考える人も多いと思います。しかし、そうはならなかった・・・。

ここが、重要なのです。もし、そのような人が存在し、活動することができたとすれば、この世界は、大混乱に陥っていたかもしれません。混乱するのは、まだ早いのです。

裏返すと、アダムスキーの体験と伝えた事柄は、あれで十分であったということです。私たちは、十分な情報をいただいているということなのです。これは、宇宙の指導者の言葉を読んでも理解できることだと思われます。後は、受け取った私たちの理解にかかっているということです。

アダムスキーを信じ、少なからず学びながら生きて来た人たちにお伝えします。彼の総ては、真実であるということです。現段階では、何も証拠をお見せすることはできませんが、間違いなく真実なのです。これは、40年を超える私の体験と学習から言えることなのです。

私たちは、恵まれています。時間が掛かったとはいえ、そのことが明らかになる時が来るでしょう。その時に、言い訳などしない自分でいなくてはなりません。まだ、真実の自己を感じられるなら、再度、アダムスキーの書物に触れ、凛として生きていかななくてはならないでしょう。彼の伝えた福音を感じられる人は、そのように生きることには不安を持たないでください。

“言葉に注目”

<宗教的な教えと日常生活との区別などはあい得ない…。>

by G・アダムスキー著『UFOの謎』（中央アート出版社）

これは、アダムスキーが、「私は異星人から何を学んだか」のタイトルで、スペースピープルの宗教について書いた文章です。地球上では、世界的に宗教が大きな影響力を持っています。人々が、宗教に傾倒していないように見える日本においても、人が亡くなると仏教やキリスト教など、それぞれの宗教にしたがい葬儀などを行います。

しかし、彼らは、教会などの宗教儀式のための施設は持たず、彼らの日々の生活が、地球上の宗教と同じような生き方であるということです。アダムスキーは、「創造主の家（大宇宙）の中では万物の永遠の融合があるからだ。」と書いています。彼らの世界は、宇宙の絶対者に対して、畏敬と忠誠心をもって生きることが、そのまま宇宙と融合しているということです。

「生命の科学」学習のポイントPart53

レクチャー5 『意識、英知、生命力』の4回目「得意になってしゃべらないこと」です。

初めに、「自分に洩らされた事柄を世間にしゃべろうというほどに心が感情的にならないようにしなければなりません。」と書いています。そして、「啓示がくるとき、それは静かにそっと与えられるからです。」としています。

ここで啓示というのは、特別な状態で受け取る特別な内容ではなく、“静かに与えられる、”というように、本人が自分の思い付きとを感じるほどに自然に違和感なく与えられるようです。そのため、啓示であると感じかずに、または、気づいている場合であっても、「おれはこんなによく知っているんだぞと仲間に話しかけようとしています。」と書いています。

これは、誤っているとして、このような時には、「他人からしてもらいたいと思うことを他人にもせよ。」と言っています。

啓示は、通常、本人にとって多くの価値ある内容を含んでいます。時には、周囲の人々が幸せになるための手法も含んでいるでしょう。それを知ったからと言って、感情的になってしゃべらないよう戒め、自分の利得のためより、他人の気持ちになって、周囲が求めているもの、必要なことを行うよう説明しているものです。

ここでは、受けた啓示を他人にしゃべらないことが大切というより、“得意、”や“感情的、”という部分、つまり、有頂天になって話すことを戒めているものです。啓示の内容を他人へ伝えなくてはならない場合もあります。この辺も留意しながら、理解する必要があります。

宇宙に“生きる”

<名言格言編53>

“太鼓判を捺す”

これは、よく聞くことわざで、絶対に間違いないと自信をもって保証することです。保証の際に判を押しますが、その判が太鼓のように大きいという例えから、そのように言われているのです。私なら、アダムスキーは、真実の人であると、太鼓判を捺したいところです。



Q：他の惑星の写真は本物？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：このことは、アダムスキーを信じる人にとって、必ず疑問となることです。太陽系の惑星写真では、月のようにクレーターの多い水星や準惑星の冥王星をはじめ、荒漠たる火星の大地などが公表されています。事実、宇宙の中で、地球のように自然豊かな惑星は少ないのだと考えます。但し、惑星の気温や気圧などは、公表されている数字と大きく異なり、地球に近いのだと思われます。気温等のように、惑星写真も修正されていることは間違いありません。

書物紹介

『次に来る 噴火大地震』 木村 政昭 著 青春出版社

本書は、通商産業省（現・経済産業省）を経て、琉球大学の名誉教授である木村氏の書物です。木村氏は、1995年の兵庫県南部地震をはじめ、2011年の東日本大地震、最近では2014年の御嶽山噴火などを予測していた学者です。御嶽山については、徐々に終息していると言われていたようですが、これから大きな噴火が起こる可能性を指摘しています。火山噴火と地震との関係を指摘する貴重な学者で、指摘の多くは傾聴に値すると思います。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催☆ 平成27年9月5日（土）、11月7日（土）、平成28年1月9日（土）、3月5日（土）、5月7日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

今回の冒頭後は、どうしても気になることについて、書かせていただきました。これは、総て真実です。皆さんも感じてください。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第53号>

発行日 平成27年9月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊 克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

先日、NHKにおいて、「恋愛が面倒でしたくない」と考える、20代の若者が増えているという放映がありました。その割合は、全体の1/3に近いということです。

面倒というのは、相手のことを気遣い色々考えることが大変ということのようです。これは、一人でも十分楽しめる機器等が色々あるというのが要因の一つだということです。

他人の気持ちを大切にするのが面倒、喜んでもらうのがおっくうというのでは、仕事を行う場合も、他人のためというより食を得るためという最も卑しい動機となるのではないのでしょうか。

これらの背景には、“個人主義”という考え方があり、その根本には、“自由”という考え方が大きな影響を与えているのではないかと思います。地球人の場合、この辺の考え方が、生きる動機であるという、そういう星であることは理解する必要があります。

同時に、このような生き方を変えていかななくてはならないことを、「生命の科学」では伝えられていると感じています。

このような星では、例えば、“自然体”で生きることが大切という、素晴らしい話を聞いても、“自然体”とは、自己の思い通り生きることと勘違いしている人も多いと思われます。

地球人の発想は、すべてエゴを動機としているという事実を再認識する必要があります。エゴに忠実であることが、自然であると思って生きてきたということです。

“自然”とは、宇宙の意識に基づくことをいうのであって、エゴに基づく行為は、非自然的行為ということになります。

以上のようなことは、何度か書いてきましたが、「生命の科学」を学んでいる人でも、“エゴか意識かの区別がなかなかできないこと”が問題であり、頭で分かっている場合は、そのことを“エゴで判断しようとしている事実気づかないこと”が問題となっているのです。

冒頭の若者の実態は、エゴにより日本人が減びかねないという、宇宙の意識に反する行為の結果として重く受け止める必要があります。

“言葉に注目”

<わずかの地球人しか持ち合わせていないような“愛”>

by G・アダムスキー著『UFOの謎』（中央アート出版社）

これは、アダムスキーが、「私は異星人から何を学んだか」のタイトルで、地球人と金星人との相違点について書いた文章です。分かりやすく書きますと、地球上の政治家や自治会の長、官僚、あるいは何らかの長は、少なからず他人に対する権限を任されています。このような人は、「同胞のなかにあって最も謙虚な召使でなければならないのだ。」と、アダムスキーは言っています。そして、これができるためには、「ある心の状態」が必要であると語っています。それが、タイトルにある“愛”であるということです。

この“愛”は、地球人がほとんど学んでいないということです。金星で当たり前となっている、このような“愛”は、言うまでもなく、地球人も学ばなければならないものなのです。

「生命の科学」学習のポイントPart54

レクチャー5 『意識、英知、生命力』の5回目、「過失を分析して訂正する」です。

冒頭に、「自分が過失をおかしたかどうかについて確信が持てなければ、結果を注意深く分析してごらん下さい。誤りをやっただと感じるならば訂正する方法が示されるでしょう。もしその訂正の行為が他人と対立することになるならば、その他人になりなさい。」と書いています。

このさりげない言葉の中に、多くの真理が潜んでいます。まず、自分が犯した過失を、自己分析により理解できると書いています。それが過失であると理解できると、その訂正方法が分かると言っているのです。過失と感じた時点で、求める人には、すぐに訂正方法が示されることが分かります。そして、訂正が他人と対立するような場合は、他人の立場で考えろと言っているのです。こうすることで、過失改善に関わる一連の解決の手順が理解されるのです。

次に、「あらゆる過失は人間を宇宙的印象から切り離し、二点間に真空または空隙のような状態を生じさせます。」と書いています。これにより、意識から遠ざかり混乱が生じるということです。過失を訂正しないと、解決されない謎が生じたり空隙によりロスが生じるので、いかなる時も過失に気づいたら、早めに訂正することが大切であるということです。ここでは、過失により、人間は意識と分離するという事実が理解できる部分です。

しかし、人間は過失を恐れて、過度に用心深くなる必要はないと言っています。また、世の中には、失われた空隙を埋めるために、そのことに関係するようなことや、与えてくれそうな人との交流を求めている人がいるということなのです。この辺は、高度ですが重要なところです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編54>

“大同小異”

「小異を捨てて大同につく（を取る）」と同じ意味です。意味を勘違いする人も多いようですが、これは、多少の意見の違いは無視して、重要な点では一致する意見に従うということです。しかし、何が重要なのかを理解できなければ、小さな部分は無視することはできないでしょう。



Q: 「生命の科学」以外に大切な書物は？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A: アダムスキーの書物は、講演録などを含め総て重要なものです。しかし、あえて言えば、「第2惑星からの地球訪問者」（中央アート出版社）の指導者の話は、文字通り宇宙からのメッセージであり、地球人に対する重要な教訓で満ちています。意外と気づかない人もいるようですが、これこそ、彼らの直接的な教訓なのです。そこで本会のホームページでは、指導者の言葉について、私の補足などを含めて掲載していますので、ご覧いただきたいと思ひます。

書物紹介

『日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか』 矢部 宏治 著 集英社
本書は、多くの日本人が抱いている疑問について、様々な書籍や事実を基に書かれているものですが、一般には知られていない事柄で満ちています。米軍機は、米軍人の住居の上空は決して飛ばないが、日本人の住居の上空は航空する。日米原子力協定は、日米地位協定と同じような構造で、日本人が決められるのは電気料金だけであること。原子力村と同じように安保村という、さらに大きな利益集団が存在することなど。実は、大変複雑であることが分かります。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催☆ 平成27年11月7日（土）は、ア氏没後50年でCC会と合同会合です。平成28年1月9日（土）、3月5日（土）、5月7日（土）、7月9日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

常に、何が真実なのか、本当に重要なのは何か？ という視点で、生きていくことが大切です。「生命の科学」は、それを伝えています。

URL: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第54号>

発行日 平成27年11月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

この地球に、真の平和は訪れるのだろうか？ 日々、テレビから流される数々の犯罪や、テロとその報復の繰り返しなど、多くの人々にとって好まない世界となっているからです。

今の世界は、大変難しい状況となっています。戦争がなければ、平和であると思うような世界となっていて、平和に対する真の概念が不足しているように思われるからです。

人々の多くが幸せ、あるいは平和と感じるのは、自己実現のできる世界であると思われまます。そのためには、人として最低限の衣・食・住が足りる必要がありますが、その後は、個人的な才能や好みにより、自己実現を目指すことができれば平和な世界ということになります。

世界の大きな流れとして、ヒューマニズム（人間中心主義）の考え方が主流となっています。これは、善や真理の根拠を神ではなく、理性的な人間の中に見出そうとしたとも言われています。西欧近代的な価値観に基づく「理性的」ということですが、その解釈が怪しいところなのです。

西洋の社会は、神や宗教を抜きに語れません。西洋の神は、ある程度人々の自由を規制することから、そこからの独立を正当化する哲学や思想が起り、それらに支えられながら、ヒューマニズムが謳歌されるようになったように思います。

分かりやすく言うと、善悪や真理か否かの判断基準が、神から人へ移ったということです。さらに言えば、神に光を当てる時代から、人に…、否、エゴに光を当てる時代となったのです。

上述の件では、人間の理性が、宇宙の意識と同義であれば良いのですが、実際には、現実における損得などの価値判断であり、エゴに立脚している場合が多いのです。

このような時代は、当たり前となっている考え方や行動の基礎にエゴがあるため、それと気づかない場合が多いものです。しかし、誤解なきように言えば、この地球上で、エゴを完全に排除する必要はなく、エゴの部分を知り、それと付き合いながら、エゴ自体がエゴを開放することを了解できるよう仕向けることが重要なのです。地球は、この辺のことを学び実践する惑星なのだと考えられます。その行為が、いずれ幸福や平和につながって行くのだと思います。

「言葉に注目」

<地球の人間は二重人格者として生きています>

by G・アダムスキー著『金星・土星探訪記』（中央アート出版社）

地球人は、「心」で現世の結果の世界を語り、「魂」で宇宙について語るという二重人格者であると言っています。しかし、地球人は、心で生きていますので、現世の結果をより多く語り宇宙についてはあまり語りません。人間は、この心によって作り出された習慣と因習に従うことから、恐怖が支配要素となり魂に魂自体を表す機会をほとんど与えていないということです。

総てのものは、自己の存在を宇宙に頼っていて、その供給を受けてきたけれども人間だけは、人間に供給を頼り、その結果、欠乏と疾病を通じて恐怖が人間の生活を支配しているということです。心は、意識のみに従えばよいわけですが、心が、心自体に従うことから、地球人は、永遠に苦しむ二重人格者となってしまったようです。

「生命の科学」学習のポイントPart55

レクチャー5 『意識、英知、生命力』の6回目、「心は大体に急げがち」です。

今回は、前回の続きで話が始まります。人生のどこかで失われたものを見出し、その空隙を埋めようとしている人でも、まだ迷っている人がいるということです。しかも、そのような人は無数にいるということです。

「しかしこれが起こると一つ以上の裂け目が生じ、ときとしてこれらの裂け目を埋めることが不可能になります。」と書いています。なぜ、裂け目が生じるのか？ その理由を、「人間の心は多くの場合に怠惰であり、最も抵抗のない楽な道を求めようとするからです。」としています。これをどう読み解くか？

人生の空隙を埋める素材を見出して、なお迷う場合、心は、確信が持てず不安なのだとも思われますが、アダムスキーは怠惰だと言っています。これは、空隙を埋める方法を見つけられども、それにより行動を起こさなくてはならない。そのことが、実行できないという意味なのだと思います。つまり、この迷いは、行動しないことを言っているようです。

そもそも、人生において空隙を創るというのは、怠惰が原因なのではないかと思われます。埋めなければならないピースを、恐らく気づきながらも怠っているのだと思います。そこで空隙が生まれ、それを埋めることに気づきながらも怠ることで、今度は亀裂が生じるということのようです。このような人は、幸福、平和、満足を決して知らないと書いています。

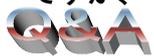
そして、宇宙的性質から外れて行くということです。ここでは、心が怠惰であることが、失敗に対する修正を困難にしているということを言っているようです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編55>

“ 綺羅星（きらぼし）の如し ”

夜空にきらきら輝く星のように、華やかなものが数多く並んでいる様子を表しています。このことから、立派な人が大勢晴れやかに居並ぶ様子を言うようです。なかなか素晴らしい言葉ですが、できれば、このような形容にあてはまるような人間になりたいものです。



Q：SPが広く知られる日は来るのか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：アダムスキーを信じる人の多くは、当初から、このことを期待していると思います。しかし、現代科学等で否定され、新たな肯定材料が出て来ないことから、疑義を持ち諦めているかも知れません。しかし、私は、そう遠くない将来、アダムスキーを信じる人々への確証と、生きるための指針を明示するため、そのような日が用意されていると強く感じています。

書物紹介

『さらば、資本主義』

佐伯 啓思 著 新潮新書

本書は、京都大学名誉教授の佐伯氏の著書で、東京大学経済学部大学院生である40年ほど前に、米国は数理経済学に夢中で、著者も散々学んだということです。しかし、著書は、当時から疑問を感じ、経済学より政治学や哲学等に興味を持ったということです。そのような人だからこそ、競争原理を重んじる資本主義の終焉に学術的に迫っているのだと思います。なぜ、専門家は、そのことに気づかないのかと思っていましたが、やっと見つけた貴重な書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成28年1月9日（土）、3月5日（土）、5月7日（土）、7月9日（土）、9月10日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

皆さんは、大変な時代に入っていることに、早く気づいて欲しいと思います。宇宙の意識に対する人間の異常性と自然の従順性です。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第55号>

発行日 平成28年1月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明（禁無断転載）